

特集

清須から宇宙へ

夜空を見上げたあの日が、夢の入り口になった。

清須市で定期的に行われている「天文講座」——

そこには、ただ星を眺めるだけでなく、夜空の先に大きな夢を見つけた若者がいました——

川村 吉弘 先生

Yoshihiro Kawamura

★
天文講座 講師
元理科教諭

昭和60年代に旧西枇杷島町で始めた有志の天文教室「星の子クラブ」以来、生涯学習講座の天文講座を約40年担当。幅広い年代に星空の魅力を伝え続けている。



荒川 陽向 さん

Hinata Arakawa

★
市内在住 高校生
地学部所属

幼少から天文講座に通い、川村先生から地学について学ぶ。日本地学オリンピックに出場し、金賞受賞。日・台・韓・比の合同研修アースサイエンス・フェスティバルにて銅メダルを獲得。

師弟関係にあるお二人にインタビュー

令和8年3月、清須市の天文講座に長年参加してきた市内在住の荒川陽向さんが、日本地学オリンピック出場を果たしました。

きっかけは、天文講座で覗いた望遠鏡のレンズ越しに広がる未知の世界でした。「なぜ星は動くのか」「あの輝きの正体は何なのか」——。講座を担当する川村吉弘先生との関係や将来のことについて、お話を伺いました！

小さな興味が大きな成果へ

— 日本地学オリンピック、アースサイエンス・フェスティバルへの出場、おめでとうございます！

荒川 ありがとうございます。地学オリンピックでは金賞、アースサイエンス・フェスティバルでは銅メダルを獲得することができました。とても嬉しいです。

— このような大会に挑戦しようと思ったきっかけは何でしょうか。

荒川 高校内で募集はあるのですが、あまり出る風潮がなくて、かなりのチャレンジになると思いました。でも、チャレンジしたくなかったです。チャレンジしないと何も始まらない。宝くじも買わないと当たらないじゃないですか(笑)。顧問の先生から誘われて、チャレンジを決めました。過去に地学オリンピックに出場した生徒はいなかったので、まさに未知への挑戦でした。

— 大会で結果を残せた要因は何だと思いますか？

荒川 「好きさ」だと思います。出場者はみんな地学のことが好きなんです。僕が一番地学が好きだと思っています。誰にも負けていないと。大会に出て改めて分かりました。地学を愛しています。

天文講座との出会い

— 小さい頃から地学に興味があったのですか？天文講座にはいつから参加を？

荒川 幼いころ母や姉に連れられて講座に参加したことがきっかけで、地学に興味を持ちました。初めて講座に参加したのが



幼少期の荒川さん

何歳だったかは記憶にありません(笑)。小学生になる前だと思いますので、おそらく3～4歳ぐらいですね。講座がとても楽しくて何度も参加しました。何より、川村先生の話が面白かったので、星を見るより先生の話が聞きたくて参加していましたね。

— 当時のエピソードで印象に残っていることはありますか？

荒川 当時、講座が大人気で、家族全員で抽選申し込みをしたことがありました。そのときは、姉2人は当選しましたが、僕と母は落選してしまいました。姉の送り迎えで教室まで行きましたが、もちろん中には入れず…。それでも扉の間隙から中の様子が少し見え

たので、覗き込んで、外から教室に参加しました(笑)。今思えば、先生が少し扉を開けてくれていたんですね。ありがとうございました!

川村 そうだったかな? 記憶に無いですねー(笑)

— 先生から見て、荒川さんは当時どのようなお子さんでしたか?

川村 熱心に私の話を聞いていたので、とても集中力がある印象でした。たいていのお子さんは1~2年ぐらい講座にやって来ますが、荒川くんは何年も続けて受講していました。質問もいっぱいしてくれて、実験や制作も喜んでやっていました。とにかく好奇心が旺盛でしたね! 小学3年生ぐらいから専門用語を使いこなして、小さな地学博士を見ているようでした。小学生にしては本当に賢く、異彩を放っていましたね。

今はもう高校生になりましたが、当時とあまり変わっていないですね。背が伸びて立派になりましたが、目はあの頃のままだす。

— そんな荒川さんのご活躍を、先生はどう見ていますか。

川村 非常にうれしいです。地学オリンピック出場は本当にびっくりしました。2回の予選を勝ち抜いて本選で金賞。よく頑張ったと思います。

本格的な研究への道

— 本格的に勉強・研究にシフトしたタイミングはいつでしょうか?

荒川 高校で地学部に入部してからです。研究成果の



発表に向けて、部員みんなで調査や観測を行いました。ちなみに川村先生の影響で、先生と同じ高校、同じ部活を選びました。それを決めたのは小学生の頃なので、研究にシフトしたタイミングは、小学生の頃とも言えるかもしれません。

川村 私が所属していたときは、物理化学部の天文班という名称でしたが、私の後輩が天文班を独立させて、地学部になりました。その後輩が、現在の地学部の顧問を担当しているので、実は荒川くんとはそういう繋がりもあったりします。

— 主にどのようなことを研究していますか。

荒川 食変光星という恒星を研究しています。食変光星は連星系といって、2つの星が重力で結ばれて回り合っているシステムなんです。片方の星がもう片方を隠す『食』が起きると、見かけの明るさが周期的に変わるんですよ。光度変化を詳しく調べると、星の大きさや質量、軌道の形まで分かるんです。でも正確なデータを取るには、長期間の観測が必要なので、部員全員で協力しないと絶対にできない研究なんです!

日本地学オリンピック

高校生を対象とした地学分野の全国学術競技大会。地質学、気象学、天文学等地球科学の幅広い知識と問題解決能力を競い、優秀者は国際大会への出場権を獲得する。



アースサイエンス・フェスティバル

日本・台湾・韓国・フィリピンの高校生が参加する国際地球科学競技大会。地学オリンピック上位者が各国代表として出場し、地質学、気象学、天文学等の知識と実技を競う。



宇宙研究の魅力と課題

一 地学、天文学の面白さとは何でしょうか。

荒川 最大の魅力の一つは、そのスケールの壮大さにあると思います。空間的には、私たちの住む地球から始まって、太陽系、銀河系、そして観測不可能な宇宙の果てまで、想像を絶するほど広大な世界を扱います。また、地球誕生から約46億年のような途方もない歲月もまた、時間的スケールとして圧倒的です。自然の雄大さや神秘性を実感させてくれる、他の学問分野では味わえない独特の感動を味わえると思います。



一 研究で壁にぶつかったことはありますか？

荒川 「宇宙の研究って何の意味があるんですか？」という質問に対して、納得してもらえない答えを出せなかったことです。とある研究発表会で他分野の生徒から実際に聞かれたことがあって、「それで食べていけるの?」「社会貢献できるの?」みたいな現実的な話になってしまいました。答えに困って、少し悔しかったですね。



宇宙研究から生まれた技術で僕らの生活が便利になっているのは事実です。でもそれって、最初から「便利な技術を作ろう」と思って研究していたわけではなく、純粋に「宇宙ってどうなっているんだろう」という疑問から始まって、結果的に役立つ技術が生まれたただけだと思います。

僕が本当に魅力を感じるのは、何百億光年も離れた星の最期を考えたりすることなんです。でもこういう知的好奇心とかロマンみたいなものって、人に説明しても「それだけじゃダメでしょ」と言われがちで……。

川村 そうですね。君の悩みは多くの研究者が通る道です。確かに地学や宇宙の研究は、すぐには役に立たないことがほとんどです。知的探究心だけが原動力と言ってもいいでしょう。でも、めぐりめぐって、その研究が社会を変えることも多いんです。



アインシュタインの相対性理論を考えてみてください。発見当時は「何の役に立つのか」と言われましたが、今のGPSやスマートフォンの地図アプリは、あの理論なしには成り立ちません。100年後にこんな使われ方をするなんて、誰も想像できなかったでしょう。長い目で見ると、本当に不思議なものです。だから自信を持って進んでほしいと思います。

将来への展望

一 将来の目標は？

荒川 宇宙を研究する方面へ進んで行きたいです。大学で地学を学んで、将来は研究員になりたいと思っています。興味があるのは、ロケットや宇宙開発で



はなく、太陽系の外にある恒星や銀河の観測です。国立天文台のような研究機関で働けたらいいなと。大学に入ってから研究を進める中で、具体的な分野が決まっていくと思います。友達は宇宙開発を目指しているので、お互い張り合ったりしています(笑)。

川村 荒川くんがここまで成長してくれて、本当に嬉しいです。研究の道は大変ですが、君なら必ずやり遂げられると思います。期待していますよ。

荒川 ありがとうございます。川村先生のおかげで今の僕があります。先生に良い報告ができるよう、これからも頑張ります！

清須市では、天体ドームを公共施設として保有する数少ない自治体として、毎月1回「天文開放」を開催しています。

季節ごとの星や天体を観察しながら、宇宙の魅力に親しんでみませんか。小さなお子さんから大人まで、どなたでも気軽に参加できます。

— 天体ドームがある場所 —



にしび創造センター 4階
西枇杷島町小田井一丁目12番地1
(名鉄下小田井駅から徒歩約3分)



天体望遠鏡を通して、スマートフォンでこのような写真も撮れます▲

今月の天文開放

天文開放の開催日は、毎月の広報清須「お知らせ」欄及び市ホームページにてご案内しています。

時	7/17(金) 19:00~20:30
場	にしび創造センター4階 天体ドーム
対	市内在住・在勤・在学の方
内	三日月と球状星団M13 / 講師 川村 吉弘 氏

天候により中止する場合があります。開催の有無は、16:00以降に市ホームページ又はお電話でご確認ください。【申込不要】

※ 小さなお子さんや家族での参加もできますが、中学生以下は保護者の付き添いが必要です。

※ 来館者多数の場合は入場をお断りする場合があります。



荒川 興味がない方でも、まずは一度参加してみてください。きっと感動を体験できると思います！



川村 普段の生活でも、私たちは知らず知らずのうちに宇宙と関わっています。この講座では、そんな新たな発見がたくさんあります。ぜひ参加してみてください！



問 生涯学習課 ☎052-400-2988



尾張西枇杷島まつり

美濃路に初夏を告げる尾張西枇杷島まつりが、今年も盛大に開催されました。
二百余年の歴史を誇る五輦の山車が練り歩き、その歴史を支えてきた人々の熱気があふれる三日間となりました。





6/5~6/7

